

所 報

一九九三年一月から一二月末までの期間における社会科学
研究の主要な活動は、以下のとおりである。

1 機構および人事

(1) 所員総会

1 第六一回定例所員総会（六月一二日、神田校舎八C会
議室）

議事 (1)平川東亜所員を議長に選出し、(2)麻島所長の挨拶
のあと、(3)第六〇回総会後委嘱された所員、研究参与、特別
研究員、事務局員の紹介があり、続いて(4)一九九二年度事業
報告、決算報告ならびに会計監査報告が承認されるとともに、
七グループ中六グループから提出された研究経過報告書
（春の総会で提出が義務付けられている）が回覧され、(5)一
九九三年度事業計画案ならびに実行予算案が原案通り承認決
定された。この結果、本年度は研究助成に関しては個人研究
五件、新規グループ研究二件（A―一件、B―一件）の助成
が承認され、また従来通り、夏春二回の合宿・集中研究会が

実施されることになった。

そのほか、所長から「社会科学研究所四〇年史」が大学か
ら二〇〇万円の補助を得て完成したことが報告されるととも
に、「社研アンケート調査」への協力要請があった。また、
二年経過後の定期刊行物の処分方法については今後事務局で
検討することになった。討議のなかで、英文レジュメの提出
者が少ないのではないかという意見が出されたので、今後と
も内規通りに提出を求めていくことになった。

総会後八A会議室において、望月学長、今田、大友、三輪
研究参与、丸山理事をはじめ約四〇名の方々を招いて、「社会
科学研究所四〇年史」の刊行を祝うパーティーが開かれた。

2 第六二回定例所員総会（十一月二七日、神田校舎一三
A会議室）

議事 (1)二瓶敏所員を議長に選出し、(2)麻島所長の挨拶の
あと、(3)第六一回総会後委嘱された所員、事務局員の紹介が
あり、続いて(4)一九九三年度事業経過報告、実行予算経過報
告、事務局活動報告が承認され、(5)一九九四年度事業計画案
ならびに要求予算案が原案通り承認決定された。そのほか、
月報八月号で「韓国企業調査団報告」を特集して関係者に送
付したこと、六月に実施した「社研アンケート調査」に六一
名の所員から回答があったことが報告された。

本総会では、二つの重要な問題について提案があり、長時

間にわたって活発な討議がおこなわれた。ひとつは、社研文献資料室の整理に関する提案である。討議の結果、①資料室をレファレンスルーム的なものとして位置付ける（資料の永久保存を目的としない）、②整理に関する方針は事務局と運営委員会で具体化する、③廃棄処分する場合には何らかの形で所員に知らせることが確認された。もうひとつは、社研のあり方に関する所長からの提案である。この提案をめぐり、社研の現状や今後の活性化の方向、事務局長や運営委員の選任のあり方、所外研究員の処遇、四年ごとの再登録の位置付け、事務局長の専任制、などに関して活発な意見交換がおこなわれた。結論としては、所長提案を大筋了承するとともに、総会で出された議論を参考にして春の総会時に研究所規程の改正案を提案してもらうことになった。

(2) 運営委員会・事務局の横成

(1) 一九九三年度の運営委員は、所長麻島昭一所員、事務局長高橋祐吉所員、第一部長玉垣良典所員、第二部長加藤佑治所員、第三部長加藤幸三郎所員（以上第六〇回総会で選出）、経済学部長西岡幸泰所員、前事務局長泉武男所員のほかに、常行敏夫所員（経済学部）、古川純所員（法学部）、奥田和彦所員（経営学部）、大西勝明所員（商学部）、柴田弘捷所員（文学部）の一二所員によって構成されている。

(2) 事務局は、麻島所長、高橋事務局長、野口旭所員、浅見

和彦所員（以上財政担当）、室井義雄所員、作間逸雄所員、川村晃正所員、森川幸一所員、福島義和所員（一月から）（以上研究会担当）、鈴木直次所員、加藤浩平所員、大橋英夫所員（以上編集担当）、加藤浩平所員（兼任）、嶋根克己所員（以上文献資料担当）、吉田雅明所員（パソコン担当）の一四所員によって構成されている。

(3) 所員、研究参与等の移動

(1) 所員 石塚正英（経）、狐崎知己（経）、小島直（経）、高萩栄一郎（商）、滝口清栄（経）、馬淵昌也（経）の六氏に五月一日付で、小口登良（商）、児島和人（文）、寿崎雅夫（商）、宮坂直史（法）の四氏に六月一日付で、白藤博行（法）氏に一月八日付で、石川一雄（法）氏に一月十六日付で、それぞれ運営委員会の議を経て所員を委嘱した。土井正興所員は一〇月一八日に逝去された。

(2) 所外研究員 江口英一、眞保潤一郎、嶋常次郎、長幸男の四氏に、運営委員会の議を経て四月一日付で引き続き所外研究員を委嘱した。

(3) 特別研究員 高梨健司氏（専大大学院経済学研究科博士課程修了）に、運営委員会の議を経て四月一日付で引き続き特別研究員を委嘱した。

以上により、第六二回定例所員総会時点における所員は一四八名、研究参与は一九名、所外研究員は四名、特別研究員

は一名となった。

2 研究調査活動

(1) 定例研究会

(1) 二月一三日(土)一六時三〇分～生田社研

テーマ 「韓国アルプス電気の現状」

報告者 本田哲哉氏(アルプス電気海外支援部アセア

ン課)

◎グループ研究「九〇年代日本の産業構造」との共催

(2) 二月二三日(火)一五時～生田社研

テーマ 「韓国における日本型生産システム」

報告者 板垣博氏(埼玉大学)

(3) 六月一九日(土)一五時～生田社研

テーマ 「中国の改革・解放と産業構造」

報告者 二瓶敏所員

討論者 大橋英夫所員

(4) 六月二六日(土)一一時～神田社研

テーマ 「英国雜感」

報告者 作間逸雄所員

(5) 七月一〇日(土)一四時～神田社研

テーマ 「開発と人権―タイの山岳民族とNGOの活

動」

報告者 古川純・石村修・大谷正各所員

(6) 一〇月一六日(土)一四時～神田八B会議室

テーマ 「冷戦後の人道的介入―比較軍事介入研究の

視点から」

報告者 宮坂直史所員

テーマ 「アメリカの軍事介入と国連―国連によるコ

ントロール」

報告者 森川幸一所員

(7) 十一月六日(土)一四時～神田社研

テーマ 「発展途上国の構造調整問題」

報告者 石川滋氏(青山学院大学)

◎国際経済研究グループと共催

(8) 十一月三日(土)一四時～神田一二A会議室

テーマ 「EC統一とドイツ経済の現状―ヨーロッパ

経済統合との関連で」

報告者 Eckart Schremer氏(ハイデルベルグ大

学)

通 訳 加藤浩平所員

(9) 十二月四日(土)一三時～神田ゼミ三四号教室

テーマ 「ドイツの戦後補償をめぐる」

報告者 佐藤健生氏(拓殖大学)

◎国家の戦争責任と補償研究グループと共催

(10) 一二月一八日(土) 一四時〜神田社研

テーマ 「EC統合と労使関係」

報告者 小笠原浩一氏(山形大学)

◎国際経済研究グループと共催

(2) 合宿・集中研究会

(1) 韓国企業調査(三月一五日〜一九日)

交流会

三月一五日(月) 一五時〜檀国大学本部会議室

工場視察

三月一六日(火) 三星電子水原工場

一七日(水) 浦項製鉄浦項工場

一八日(木) 現代自動車蔚山工場

(2) 夏期合宿・集中研究会(七月二八日〜二九日)

集中研究会 七月二八日(水) 一四時〜一七時 焼津市

魚市場会議室

テーマ 「食糧経済の観点からみた水産物の需給状

況」

報告者 中島正道氏(茨城大学)

テーマ 「焼津漁業の現状について」

報告者 武田守人氏(焼津漁業協同組合)

井川哲男氏(同組合焼津水産加工センター)

見学 七月二九日(木)

六時〜八時 焼津市魚市場

九時〜一二時 水産加工団地

一三時〜一五時 おさかなセンター

(3) グループ研究助成

一九九三年度は左記の七件(1)〜(7)を継続して助成したほか、助成Aを一件(8)、助成Bを一件(9)新たに助成した。助成額は助成Aは五〇万円、助成Bは二〇万円とした。なお、研究助成Aに対しては、グループのメンバーのうち一人以上の所員が、当グループが定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

(1) 「フェルナンソ・ブローデルと世界経済」(九〇年度発

足、九二年度一年間中断し復活)

(常行)「責」・大庭・作間・松浦・村上・望月(清)

・八林・狐崎の八所員)

(2) 「金融自由化と金融再編成」(九一年度発足、以下同

じ)

(吉田(震)「責」・熊野・加藤(幸)・加藤(佑)

・井上・野口・池本の七所員)

(3) 「日・米・欧における企業行動の研究」

(奥村「責」・大西・黒川・伊吹・赤羽・柳・伊藤

(不)の七所員)

(4) 「現代社会の学問的課題」

〔澤野〈責〉・内田・高橋・石塚(良)・村上・矢吹・石塚(正)の七所員〕

(5) 「地域社会の比較研究」

〔米地〈責〉・柴田・宇都・広田・嶋根の五所員〕

(6) 「九〇年代日本の産業構造」(九二年度発足、以下同じ)

〔水川〈責〉・泉(武)・大西・加藤(佑)・二瓶・野口・溝田・矢吹(満)・柴田・三輪(研究参与)の一〇名〕

(7) 「国家の戦争責任と補償―とくに戦後補償について」

〔石村〈責〉・隅野・古川・平田・森川・内藤・矢吹(芳)・大谷・小沼・樋口の一〇所員〕

(8) 「『グローバル化』する現代国際経済」(九三年度発足、以下同じ)

〔小島〈責〉・浅見・大倉・大橋・加藤(浩)・狐崎・鈴木・室井の八所員〕

(9) 「国民経済計算の動向と課題」(研究助成B)

〔作間〈責〉・黒川・佐藤(博)・田路(研究参与)の四名〕

(4) 個人研究助成

一九九三年度は左記の五件を助成し、助成額は一件一五万

円とした。なお、個人研究助成に対しては、原則として交付年度より起算して三年以内に本研究所が指定もしくは承認した公表誌に、その研究成果を公表する義務が課されている。

(1) 小沼堅司所員「G・オーウェル政治思想の研究」

(2) 黒川保美所員「環境問題と会計」

(3) 田口冬樹所員「米国におけるショッピングセンター開発の歴史と展望」

(4) 中島巖所員「北欧学派の方法と正義」

(5) 森宏所員「海外(オセアニアおよび米国)在留邦人の肉類消費の実態」

3 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

一九九三年に三五五号から三六四号までを刊行した。

三五五号(一九九三年一月)

澤野徹所員「L・フォイエルバッハの草稿『日本の宗教』」

三五六号(一九九三年二月)

石塚正英氏(本学経済学部非常勤講師)「KommunistenはParetoを越えている―『共産党宣言』と政党の廃絶」

三五七号(一九九三年三月)

原田博夫、大倉正典、大林守、斉藤雄志、山田節夫所員「計量経済ソフトウェアの比較」

三五八号(一九九三年四月)

広田康生所員、藤原法子氏（本学大学院）「ある調査の記録・『フィールド日誌』に見る鶴見の日系人世界」

三五九号（一九九三年五月）

広田康生所員「『エスニック・コミュニティ』研究の視点と方法」

三六〇号（一九九三年六月）

池田博行研究参与「野心に燃え、燼きた S. Philipart の生涯―ベルギーの鉄道王―」

三六一号（一九九三年七月）

森宏所員「I am sorry...言う文化・言わない文化／日本人の肉類特に牛肉消費の上限―オセアニア在留邦人家庭の肉類消費実態調査について」

三六二号（一九九三年八月）

「韓国企業調査団報告」

三六三号（一九九三年九月）

広瀬裕子所員「セクシャル・ハラスメントは性差別か？」

三六四号（一九九三年一〇月）

澤野徹所員「日本における L・フォイエルバッハ文獻」

4 その他の活動

(1) 「社会科学研究所四〇年史」の刊行

研究所が創設されてから四〇年が経過したので、記念事業として「社会科学研究所四〇年史」を三月に刊行した。研究所内外の既存資料を収集整理するとともに、二回の座談会を開催し所員に寄稿を依頼した結果、四〇年略史と資料を含め約三七〇頁の分量となった。なお本事業に関しては、大学から最終的に二〇〇万円の特別補助を受けることができた。記して感謝したい。

(2) 「社研のあり方に関する調査」の実施

六月に「社研のあり方に関する調査」を全所員を対象に実施し、六十一名の所員から回答をえた（回収率四二・七％）。

(3) 文獻、資料の収集と整理

(1) 文獻、資料の収集

定期購読誌以外に、所員の購入希望にもとづいて以下の文獻（主要なもののみ）を購入した。

① Encyclopedia of American Social History. Vol.

② The Economics of the Manchester School, Vol. 1-6

③ 世界統計年鑑 一九八七

④ OECD経済統計 一九六〇・一九九〇

(2) 文献、資料の整理

夏期休暇前後の期間に集中的に統計書類や紀要の製本・整理を行なった。

(4) パーソナル・コンピュータの活用

(1) ソフトウェアの購入

① MICROSOFT-WINDOWS 3.1

② LOTUS 1-2-3 WINDOWS

③ 駅すばあと 九三・五月版

(2) ソフトウェア環境の整備

MS-WINDOWS 3.1 導入に伴い、関連ユーティリティの充実をはじめとした環境整備を行った。

(3) パソコンに関する個別相談